



多摩商工会議所管内景況調査報告

令和3年 下期調査結果

令和4年 1月

多摩商工会議所

目 次

調査の概要	1
調査事業所の属性	2
調査 1	3
①売上について	
②採算について	
③仕入単価について	
④従業員について	
⑤業界の景気動向について	
⑥資金繰りについて	
⑦金融機関の融資状況について	
調査 2	8
①売上見通し	
②採算見通し	
③仕入単価の見通し	
④従業員の見通し	
⑤業界の景気動向見通し	
⑥資金繰りの見通し	
⑦金融機関に融資状況見通し	
調査 3	新型コロナウイルスの影響やインボイス制度について 11
調査 4	今後の景気対策等についての主な意見、要望 13
付 録	令和3年 下期 多摩商工会議所管内景況調査 15

調査の概要

◇調査目的 多摩市の景気動向を把握し、今後の意見具申・要望活動に役立てるために実施する。

◇調査期間 令和3年11月20日～令和4年1月17日

◇調査事業所 調査数 187社 有効回答数 103社(55.1%)

(内訳)

製造業14社・建設業12社・不動産業8社・サービス業36社・卸売業3社・飲食業12社

小売業15社・運輸業3社 以上103社

◇調査方法 無作為抽出による事業所に対して、書面調査およびヒアリング

◇調査内容 ①令和3年7月～12月の状況について、令和2年7月～令和2年12月と比較して調査した。

②令和3年7月～12月と比較して、令和4年1月～6月の先行き見通しについて調査した。

③新型コロナウイルスの影響、インボイス制度について調査した。

④今後の景気対策等についての意見・要望を調査した。

◇調査結果

・令和3年下期の景況については、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けており、全体の59%(前回68%)がまだ影響を受けている状況である。景気の動向をみると「悪化」の回答が50%あり、依然として厳しい状況が続いている。

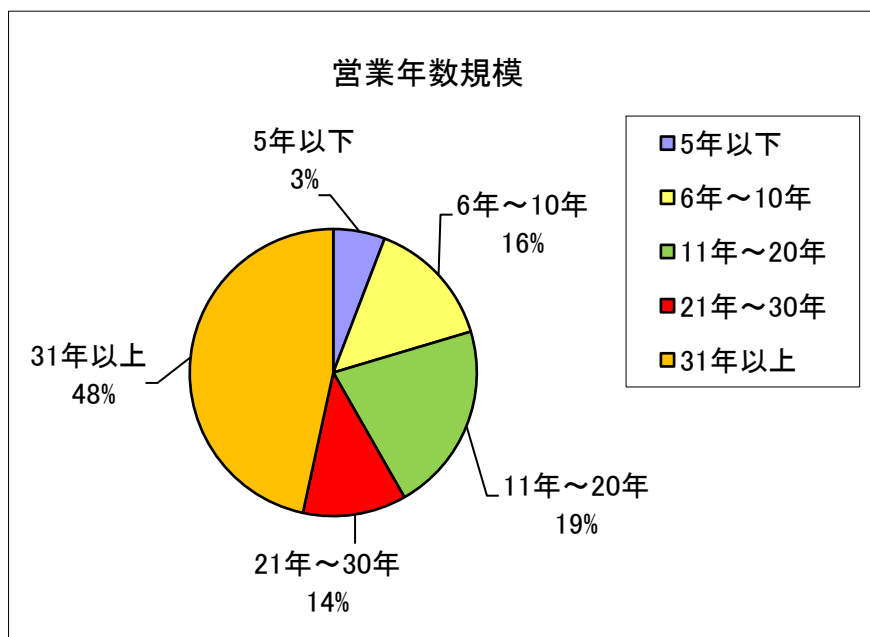
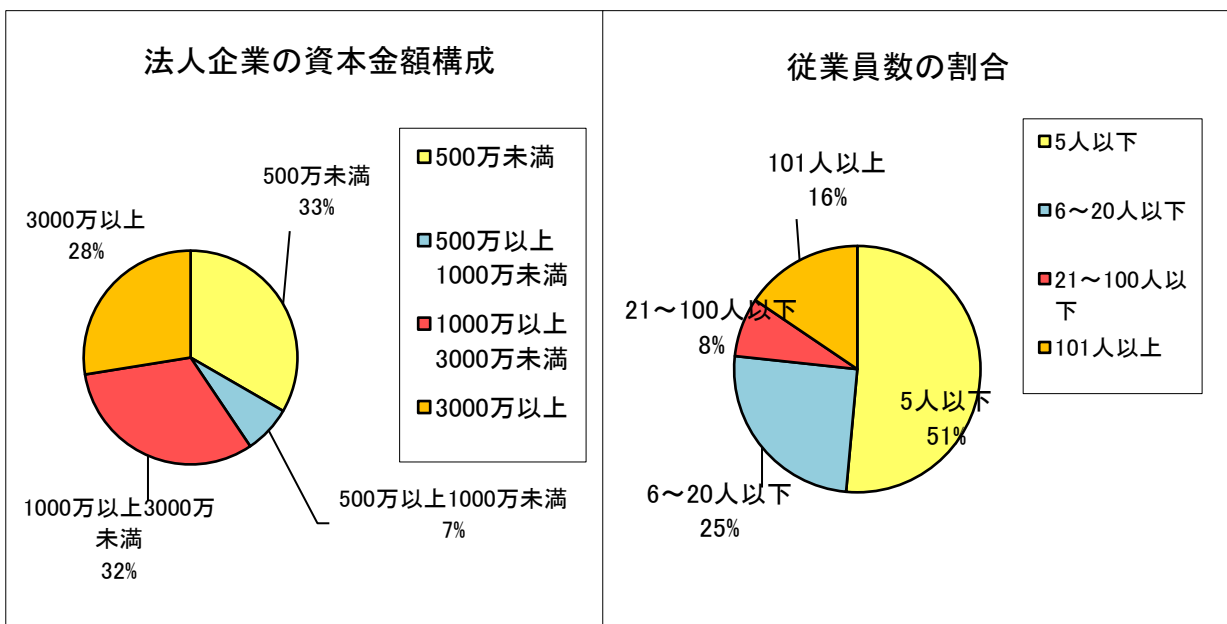
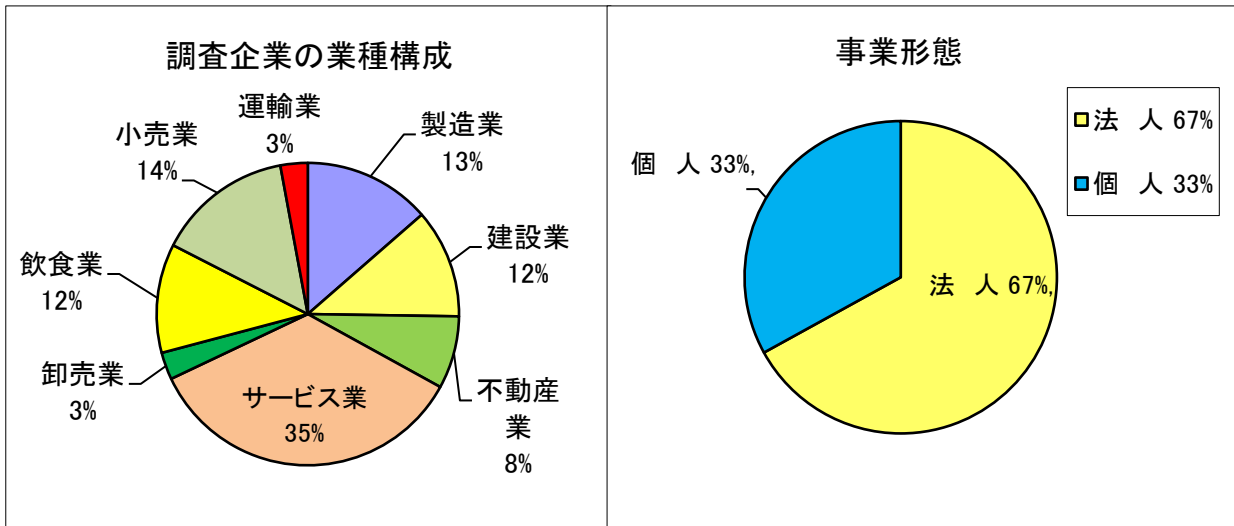
・令和4年上期の先行き見通しでは、コロナワクチンによる重症化予防効果は期待できるものの、感染者数が再び増加し、コロナ収束が全くみえないなか、景気の先行き見通しについては全体の38%の企業が「悪化」と回答した。

緊急事態宣言解除の前後の売上は66%が「変わらず」と回答し、「増加」が16%あるものの、「減少」15%あり、全体として売上の回復は見られなかった。

経営課題では、「売上・受注の減少」が約半数の企業から回答があった。インボイス制度では「既に改修済」が8%と回答があったものの、まだ対応できていない企業が大半であった。

・今後の景気対策等についての主な意見として、「コロナの影響が大きい事業者への支援金・補助金等の拡充が必要。」「コロナの影響で、大変だったがイベントが少しずつ再開されており、このまま収束してほしい。」「今の状態では会社の維持が困難。新規事業参入を検討中。」「物流費などが上昇し、売上も伸びず経営的にはかなり厳しい。」等の意見が寄せられた。

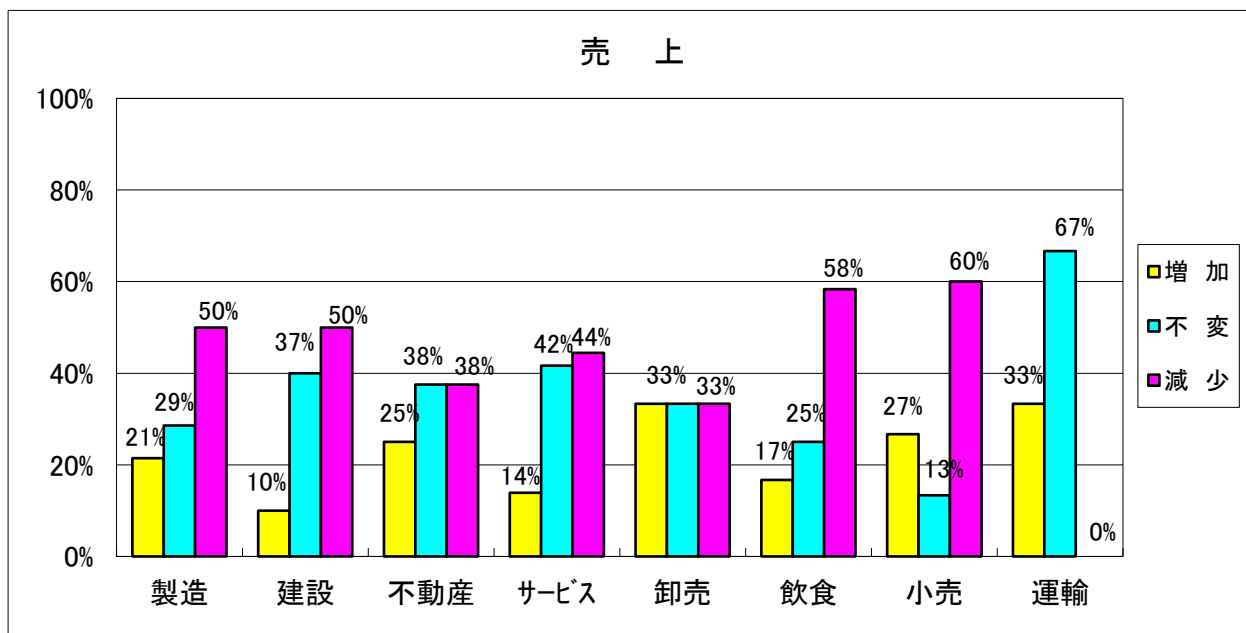
◇調査事業所の属性



調査1 令和3年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と令和4年上期の見通しについて比較表示してある。

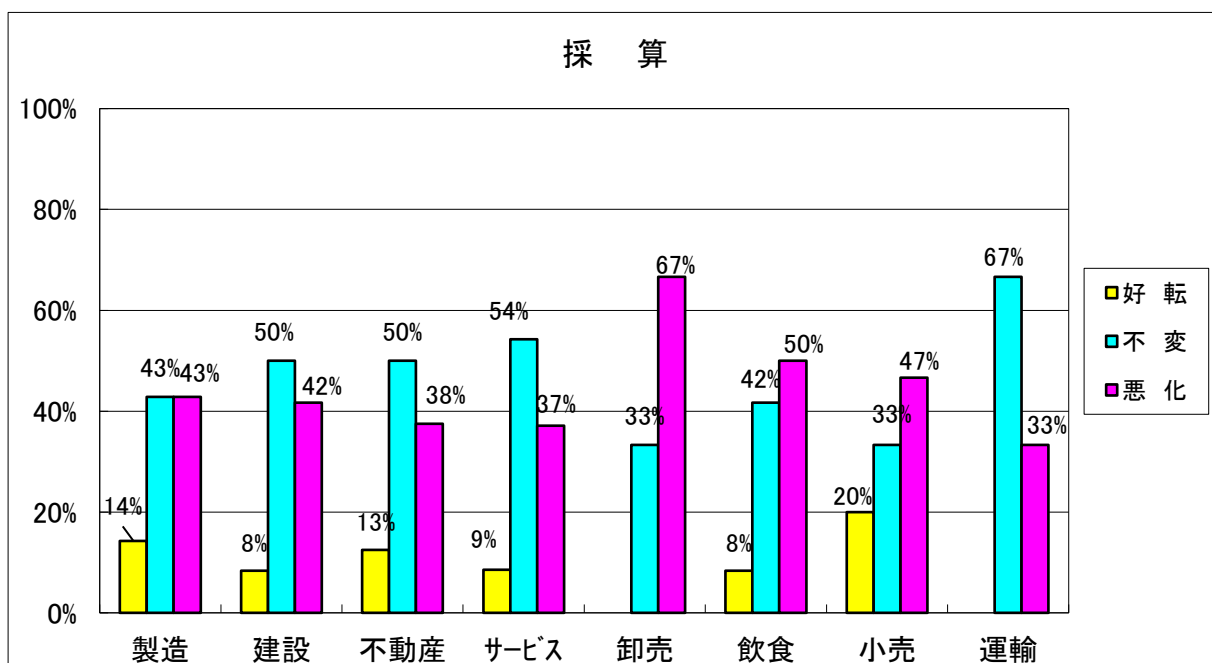
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が19%（前回20%）、「減少」は48%（前回56%）と、前回調査に比べると売上の減少している企業は減っているが、コロナ感染の影響は大きい。全業種の約半分の企業が売上「減少」と回答し、特に小売業、飲食業が減少している。



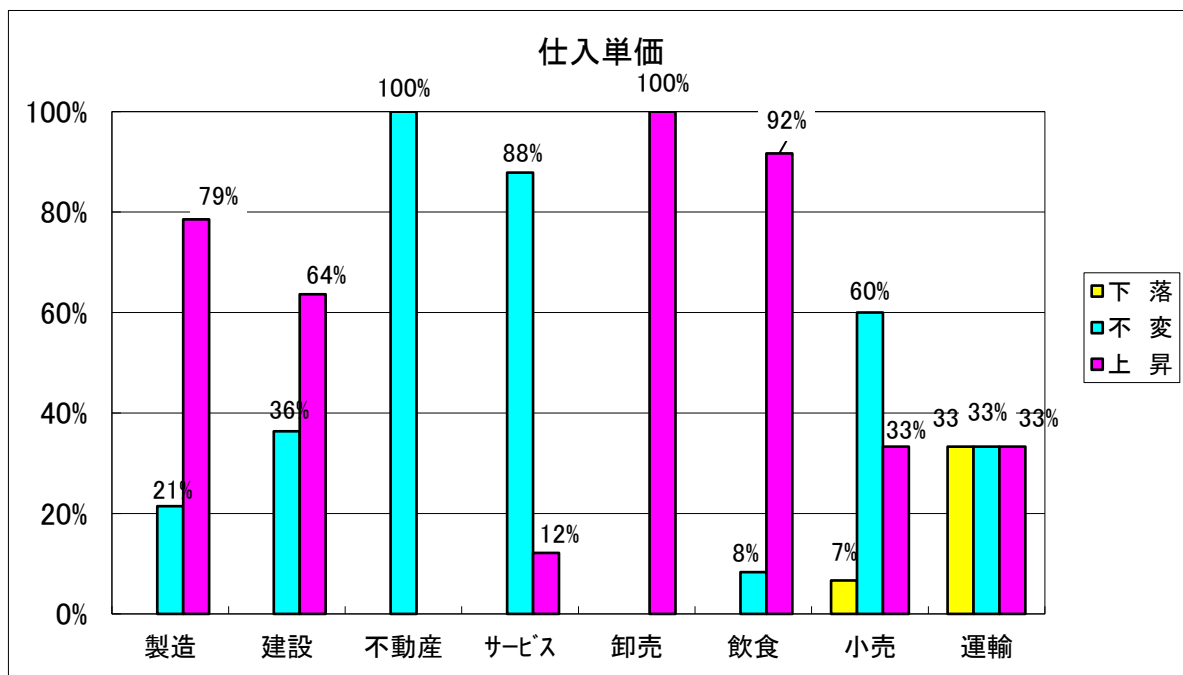
②採算について

全体でみると、「好転」11%（前回13%）、「不変」47%（前回40%）、「悪化」42%（前回47%）であった。業種では卸売業（67%）、飲食業（50%）が「悪化」大きく、厳しい状況である。



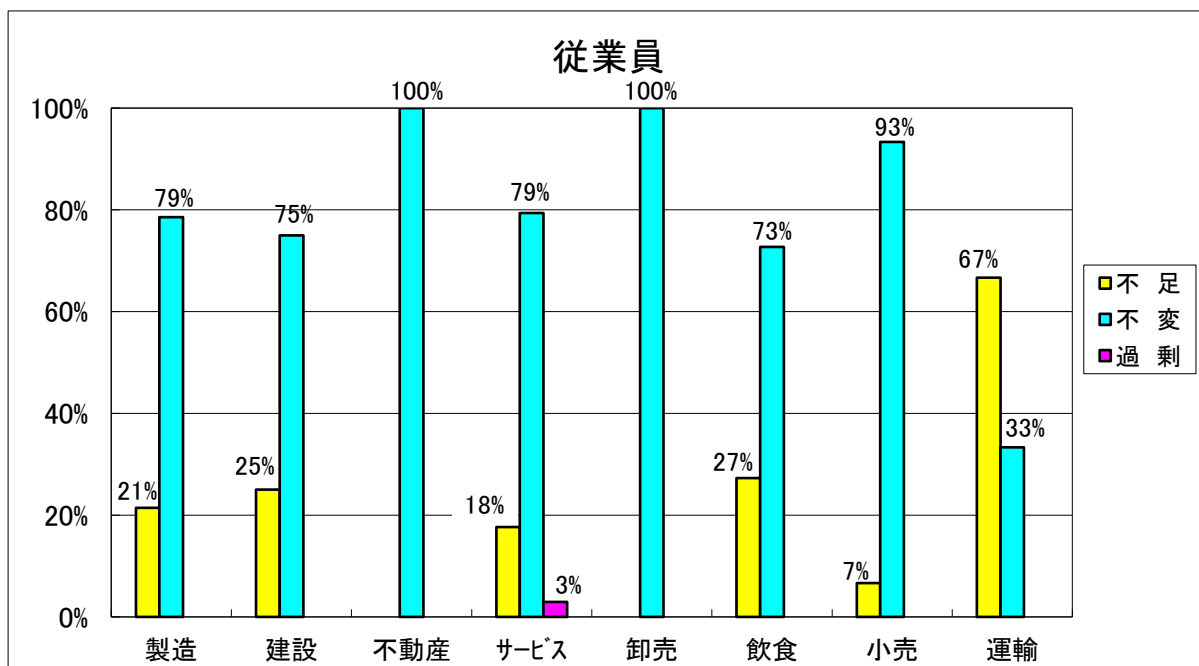
③仕入単価について

全体的には「不変」が56%「上昇」が42%であった。仕入単価の「上昇」顕著なのが、卸売業100%（前回33%）であった。「下落」が大きかったのは、運輸業33%（前回0%）であった。

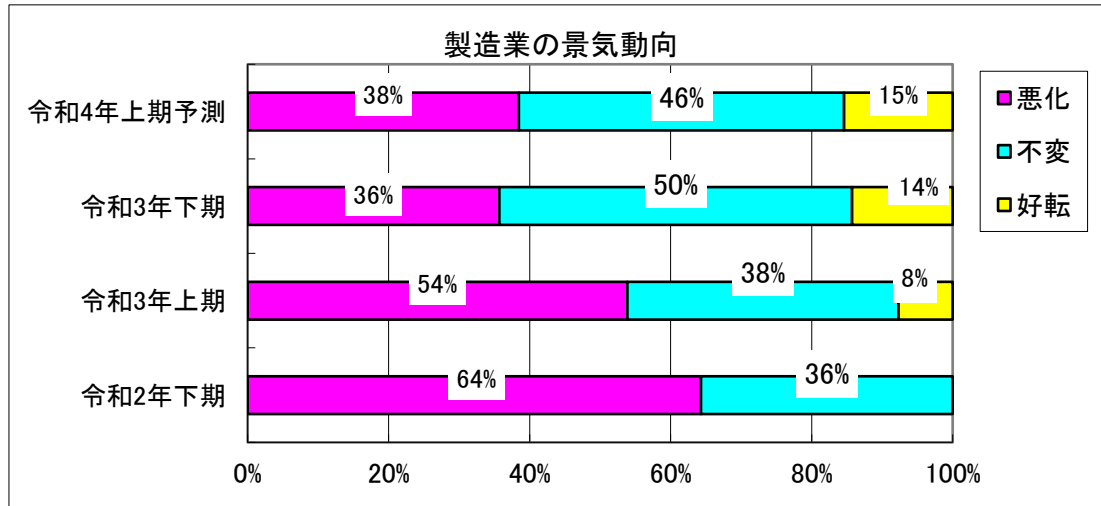


④従業員について

全体的にみると、企業の81%から「不変」と回答があった。そのような中、前回調査と同様に運輸業は変わらず不足の状況が続いている。また、飲食業が27%、建設業が25%、製造業が21%不足している。

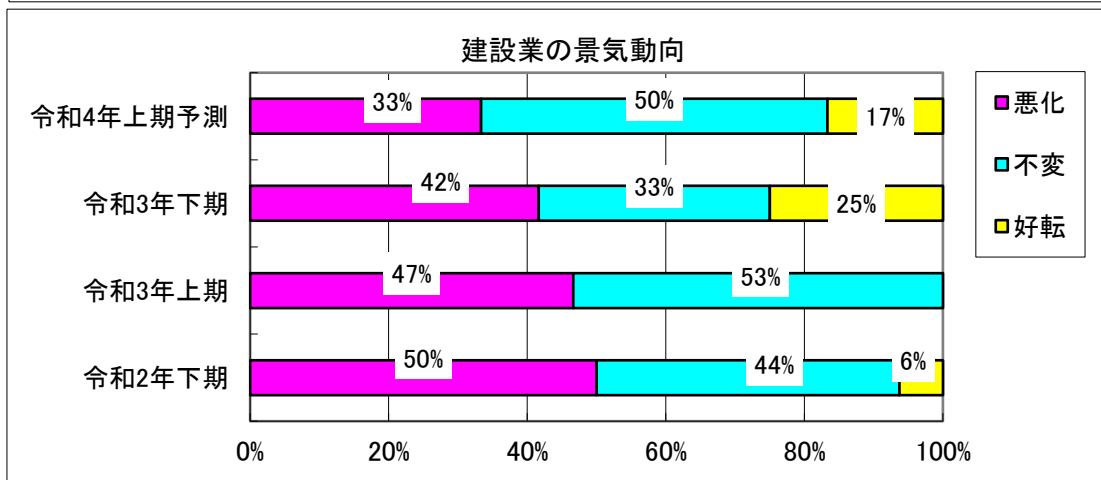


⑤業界の景気動向について



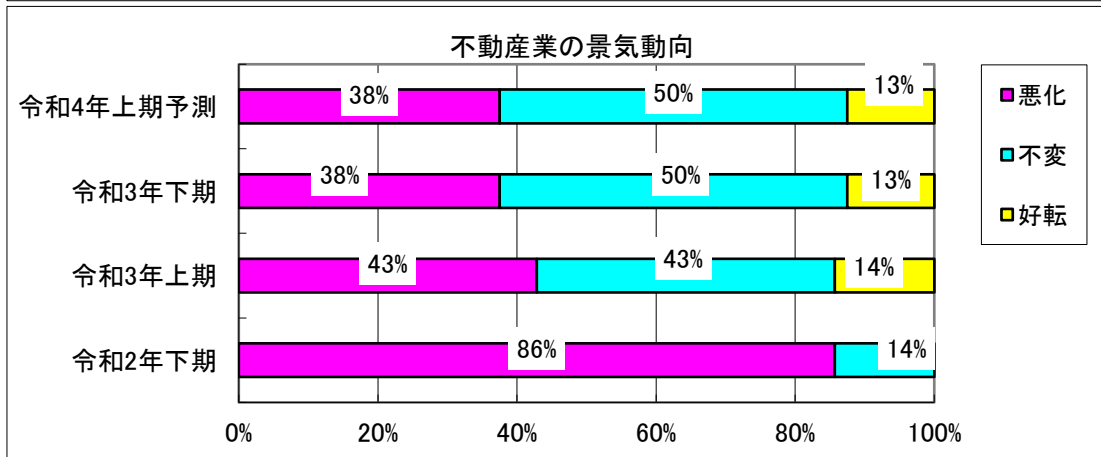
■製造業

令和3年下期では、一部「好転」14%と上期と比べて改善したものの、36%が「悪化」と回答した。令和4年上期の見通しは「好転」15%、「悪化」38%で引き続いて厳しい状況が予想される。



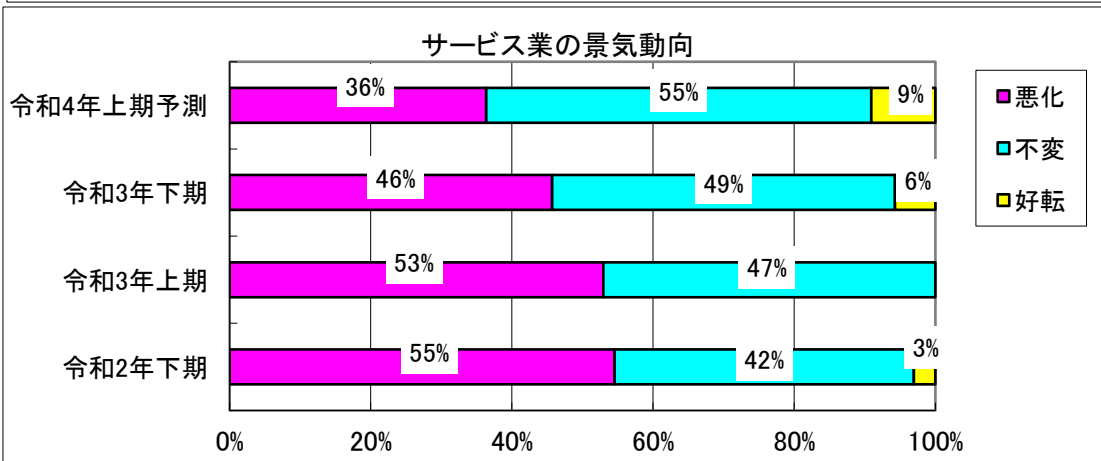
■建設業

令和3年下期は、「好転」25%と増加したが、「悪化」が42%と厳しい状況であった。令和4年上期では、「好転」が17%あるものの「悪化」は33%との見通しで厳しい予測がでている。あまりよくない状況である。



■不動産業

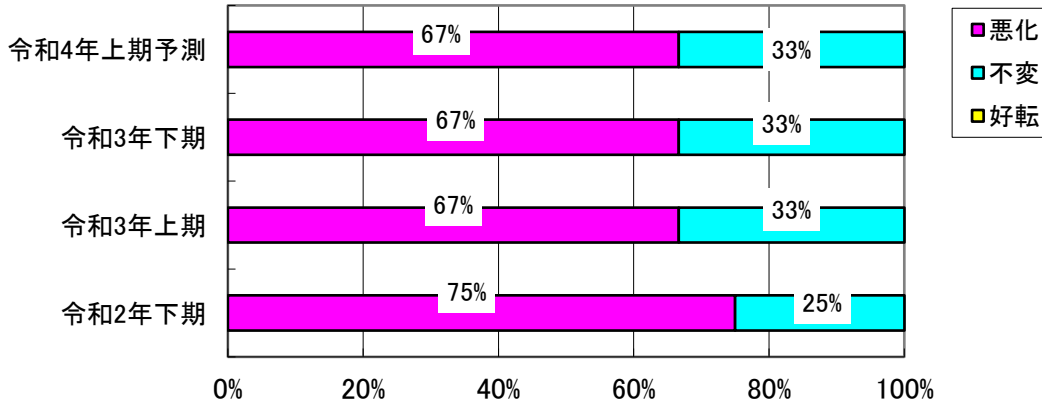
令和3年下期は、「好転」は13%あるが、「悪化」が38%と厳しい状況である。令和4年上期も「好転」が13%あるが、「悪化」が38%との見通しで厳しい状況が続く予測である。



■サービス業

令和3年下期では、「好転」が6%あるが、「悪化」が46%で厳しい状況であった。令和4年上期も「好転」が9%あるものの、「悪化」が36%と依然として厳しい状況である。

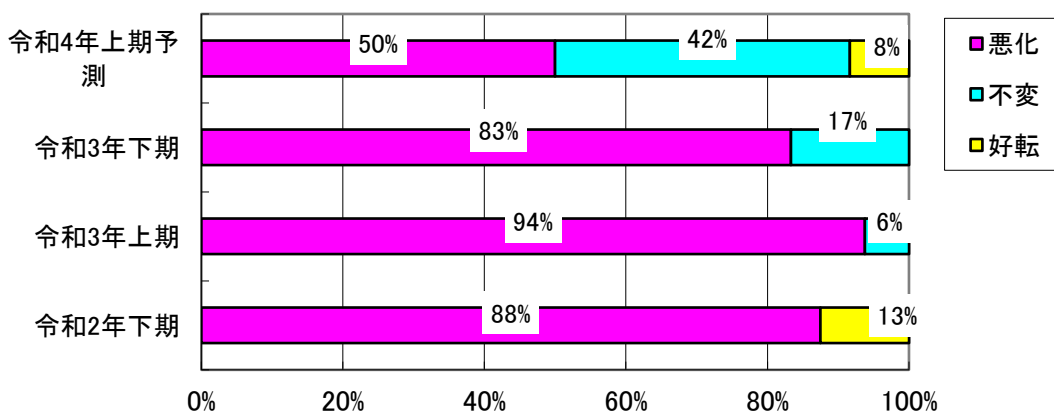
卸売業の景気動向



■卸売業

令和3年下期は「好転」が無く、「悪化」が67%、「不変」が33%で厳しい状況である。令和4年上期では、「不変」33%、「悪化」が67%で、依然として厳しい見通しとなっている。

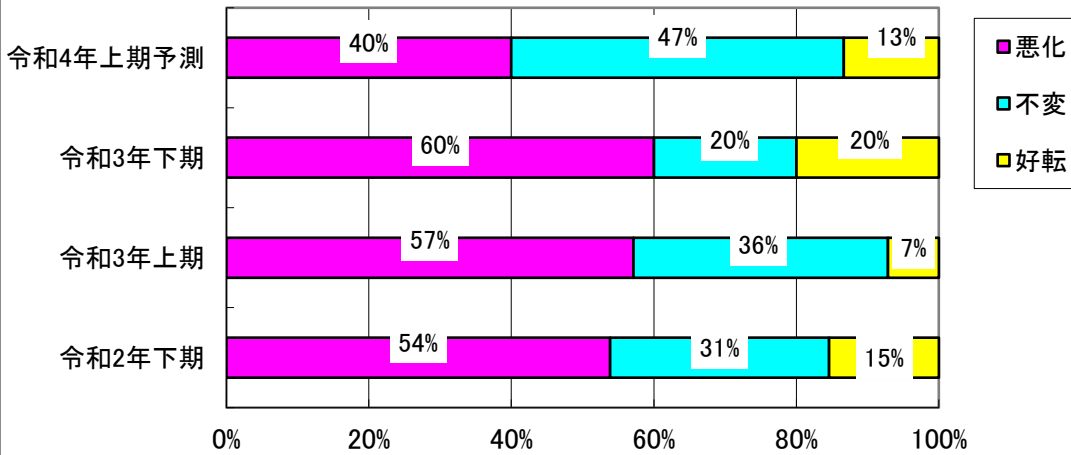
飲食業の景気動向



■飲食業

令和3年下期では「好転」が無く、「悪化」が83%と上期と同様にコロナの影響を受けている。令和4年上期も悪化が50%と厳しい見通しとなっている。

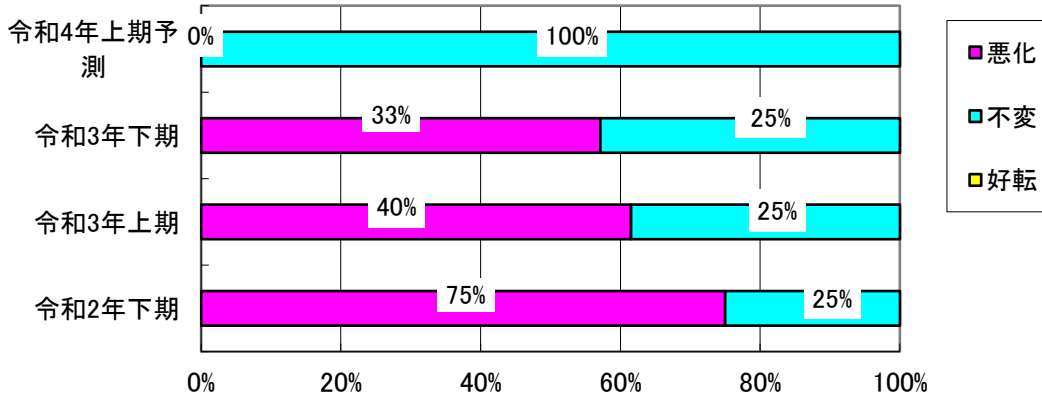
小売業の景気動向



■小売業

令和3年下期は、「好転」20%と上期より改善している。「悪化」は60%と未だ半数以上が回答している。令和4年上期の見通しは「悪化」が40%とかわらず厳しい見通しとなっている。

運輸業の景気動向

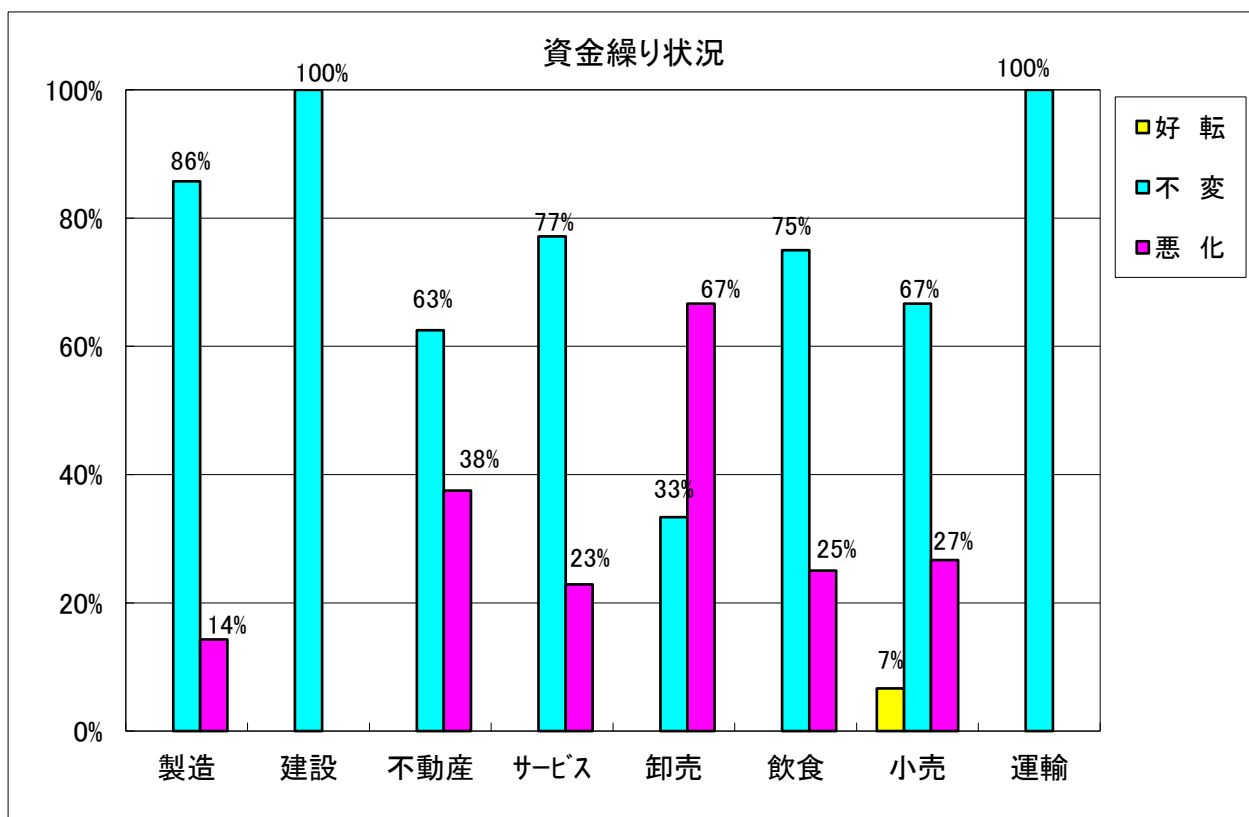


■運輸業

令和3年下期は、引き続き「好転」がなく「悪化」33%と引き続き厳しい状況となった。令和4年上期も好転の見通しがなく、「不変」が100%と引き続き厳しい見通しであった。

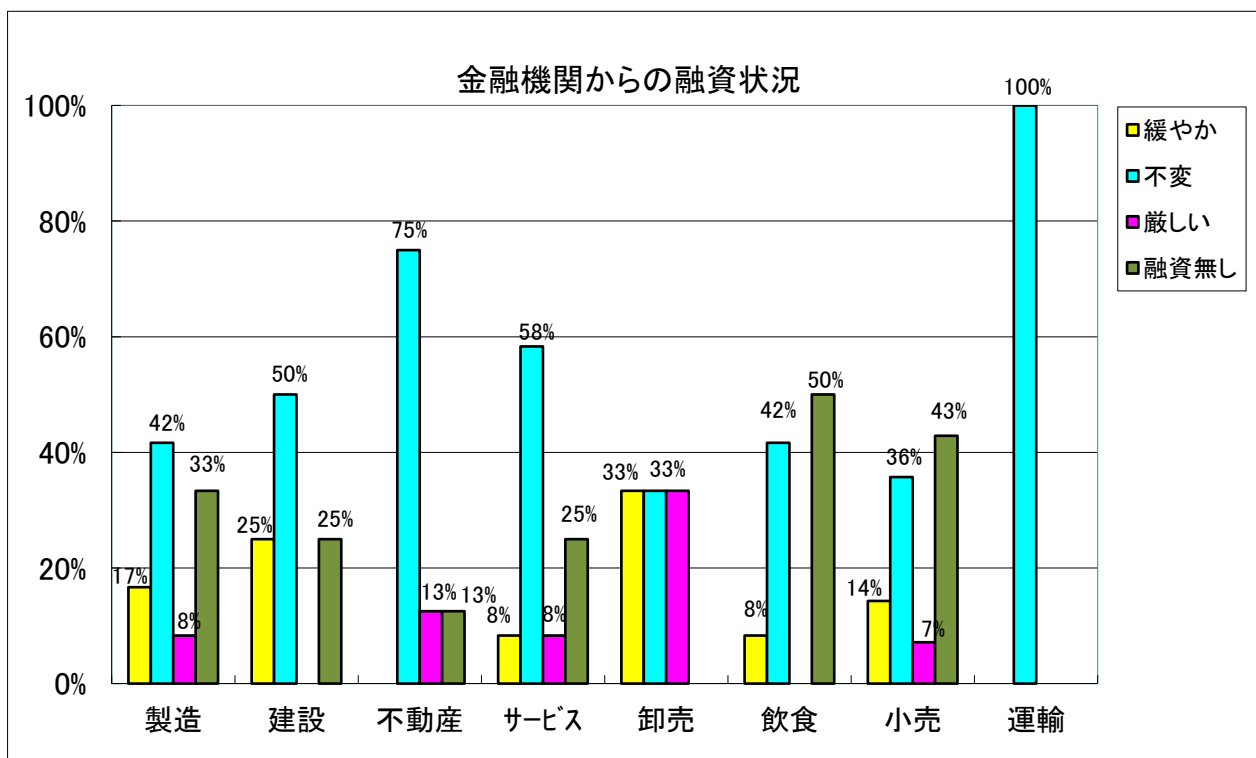
⑥資金繰りについて

全体で見るとコロナの影響により資金繰りが悪化傾向がみられた。「悪化」が22%（前回27%）、「不変」が77%（前回68%）、「好転」が1%（前回5%）と回答している。業種で見ると卸売業67%・不動産業で38%と悪化傾向が強くみられる。



⑦金融機関の融資状況について

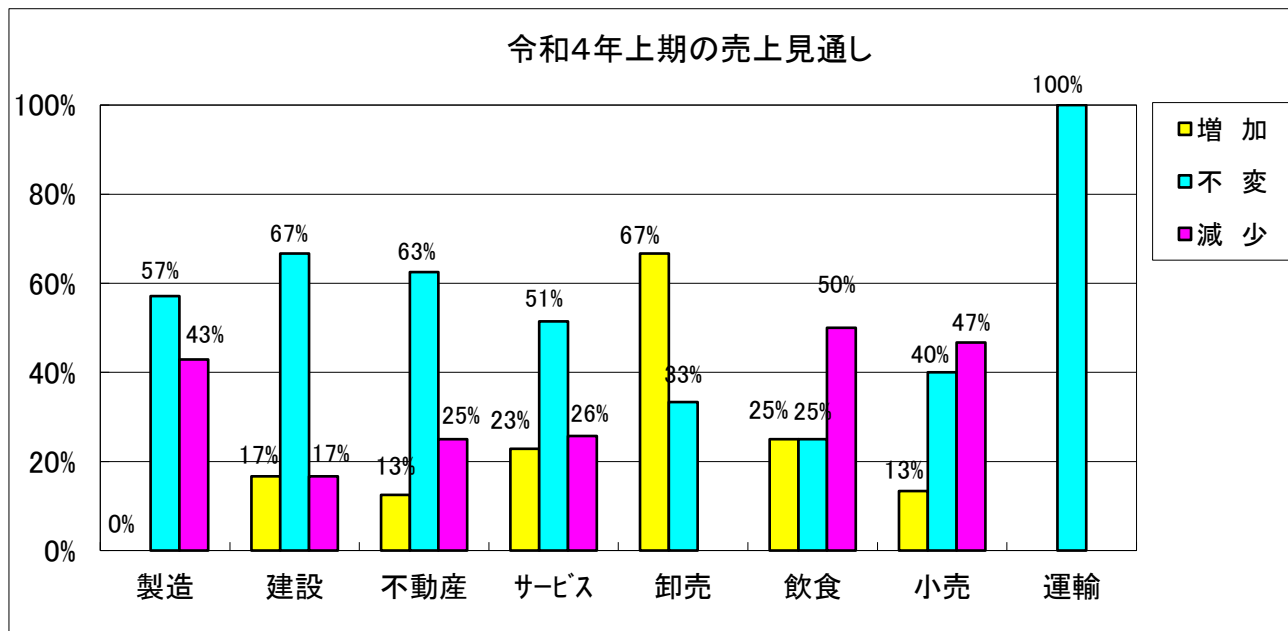
全体的にみると「不変」が52%（前回58%）、「融資無し」が29%（前回24%）、「厳しい」が7%（前回8%）、「緩やか」が12%（前回10%）であった。



調査2 令和3年7月～12月を基準とした令和4年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

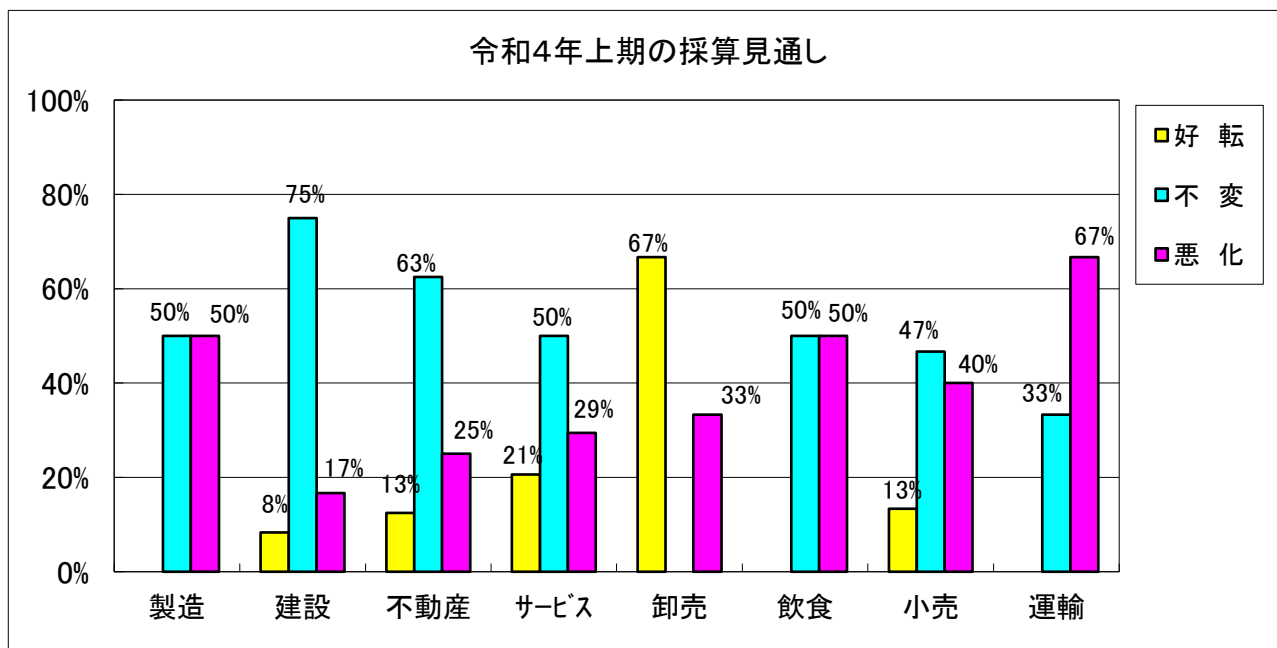
①売上見通し

全体でみると「増加」18%（前回22%）、「減少」31%（前回45%）、「不変」51%（前回33%）となっている。業種別でみると「増加」の見通しが強いの卸売業（67%）、一方、「減少」の見通しが強いのが飲食業（50%）、小売業（47%）、製造業（43%）であった。



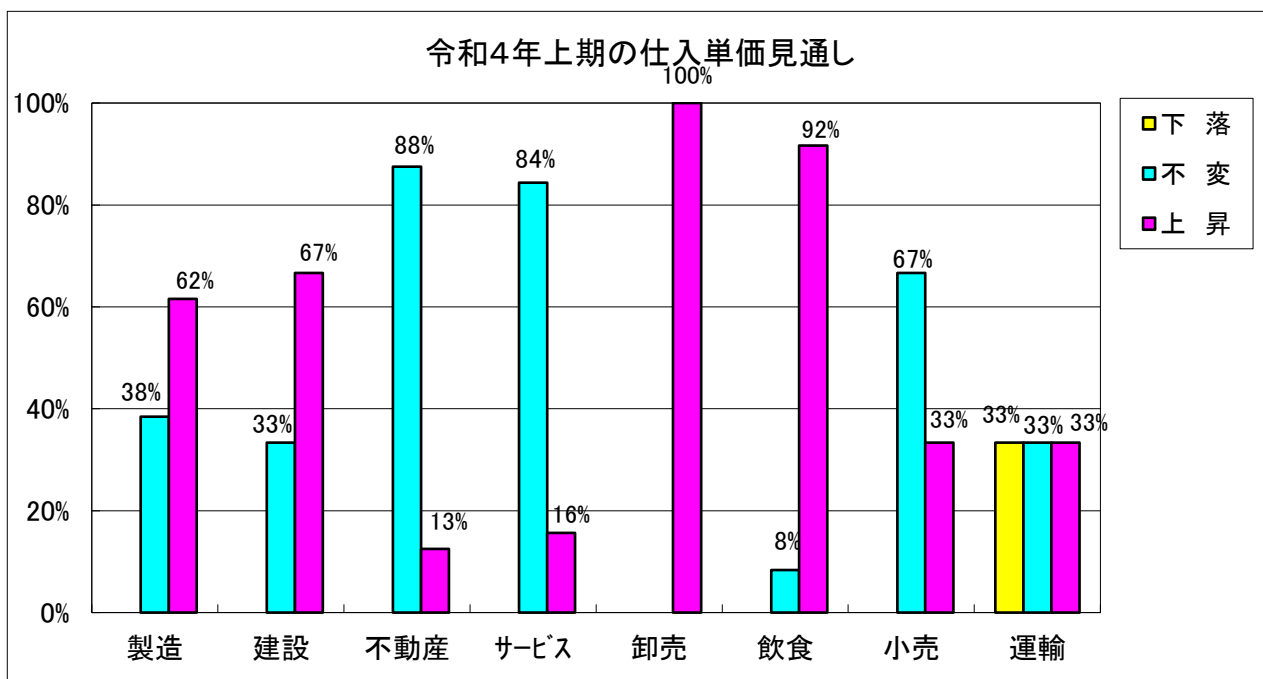
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が13%（前回16%）、「不変」が51%（前回44%）、「悪化」が36%（前回40%）となり依然と厳しい状況が続いている。業種でみると、「好転」の見通しが多いのが卸売業（67%）で、「悪化」の見通しが多いのが運送業（67%）、飲食業（50%）、製造業（50%）となっている。



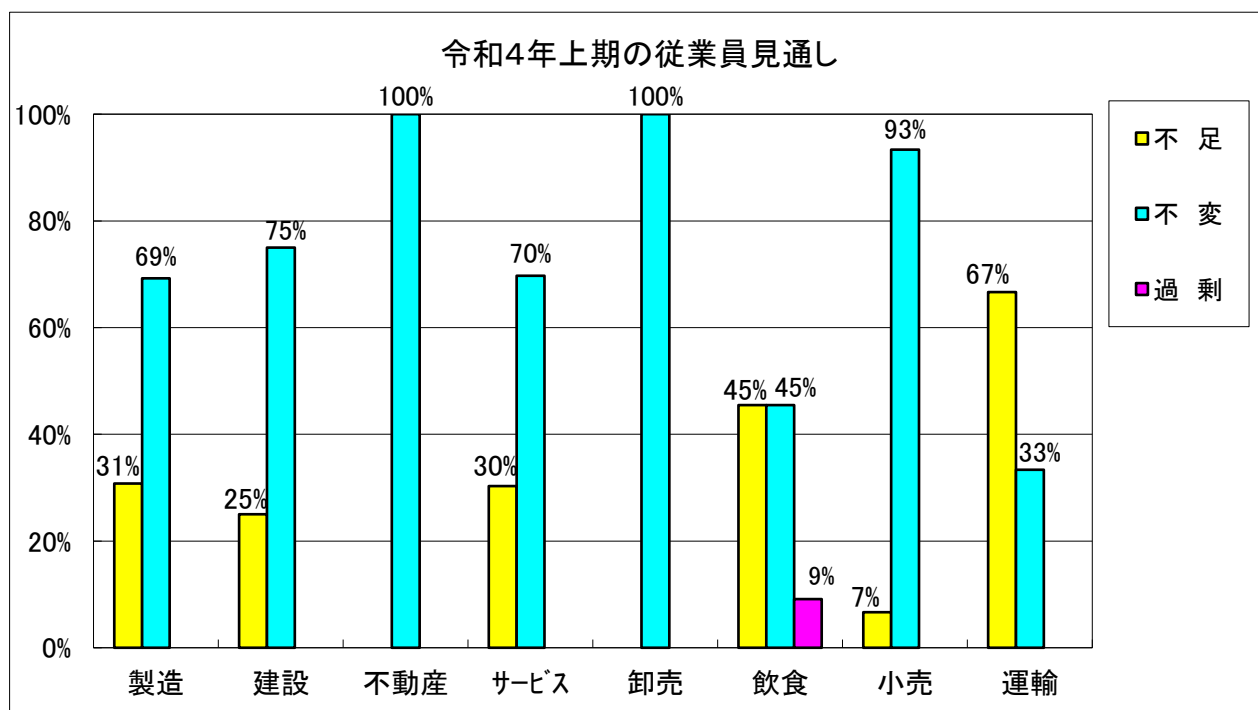
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が56%（前回63%）、「上昇」が43%（前回35%）の見通しであった。業種別では「上昇」が高いのは卸売業100%、飲食業92%高くなる見通しとなっている。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が26%（前回12%）、「不変」が73%（前回85%）、「過剰」1%（前回3%）であった。前回調査に比べると従業員の見通しは悪化した。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業67%（前回40%）であった。

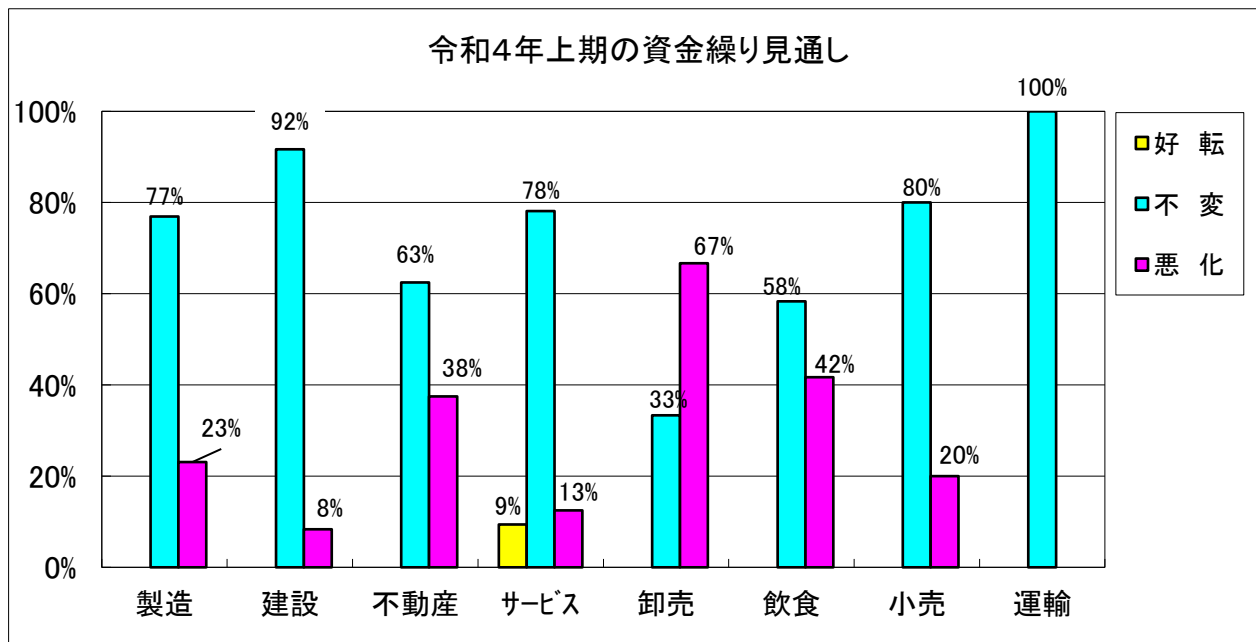


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

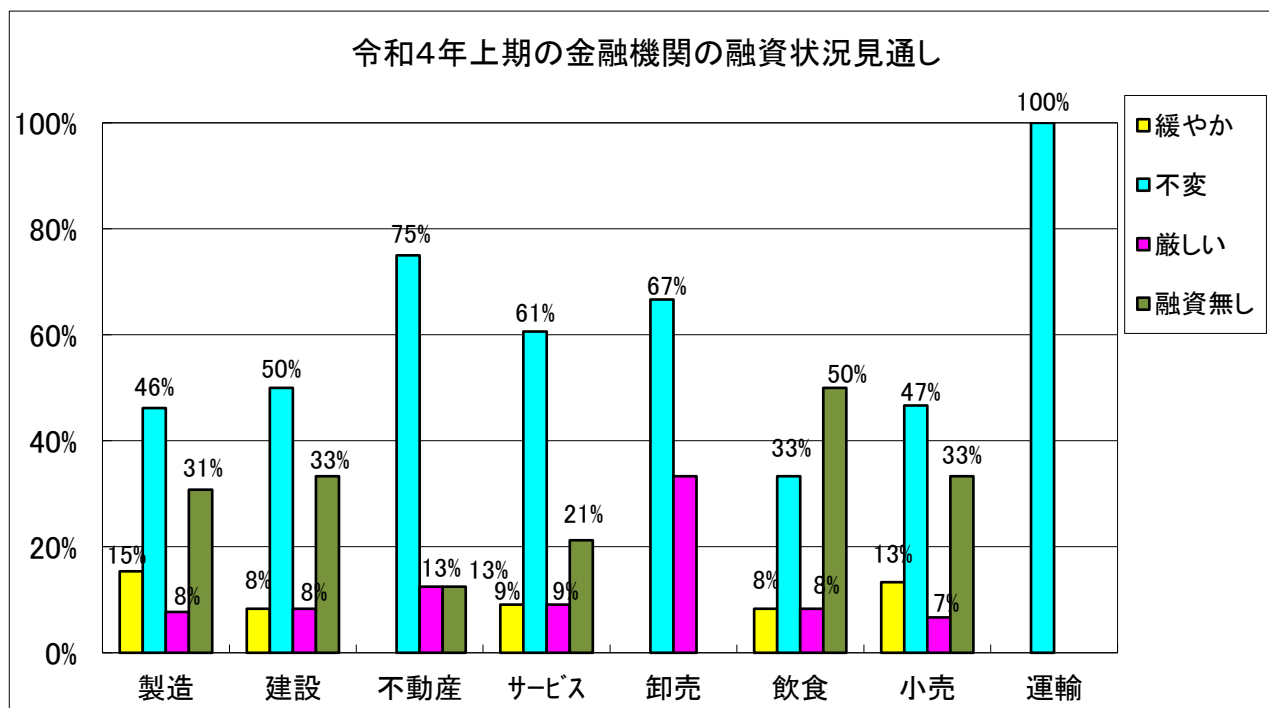
⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が76%（前回72%）、「悪化」が21%（前回21%）、「好転」が3%（前回7%）となり、資金繰りは前回よりやや悪化し依然と厳しい状況が続いている。



⑦金融機関の融資状況見通し

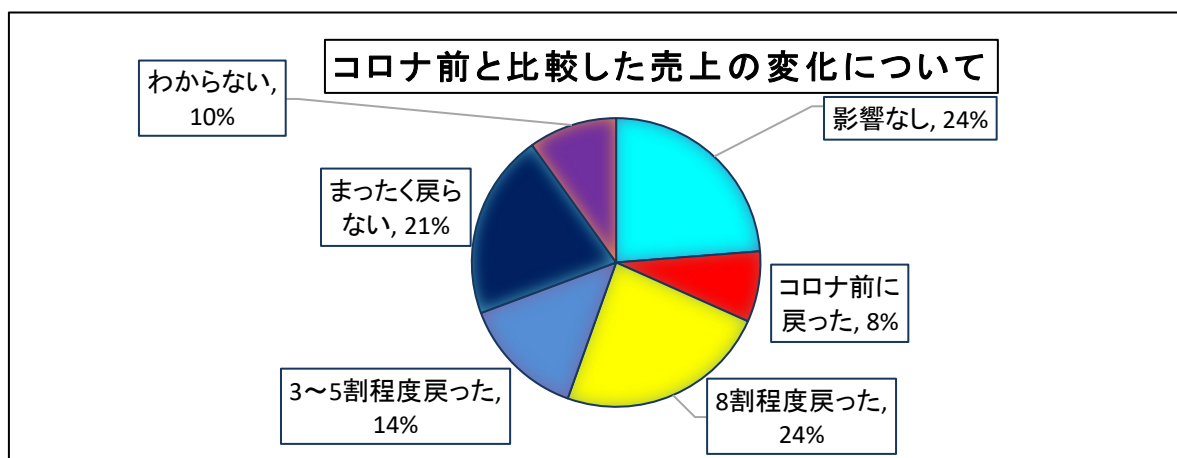
全体的には「不変」(55%)が多く、続いて「融資無し」(27%)、「緩やか」が(9%)「厳しい」(9%)となっている。



調査3 新型コロナウイルスの影響・インボイス制度について

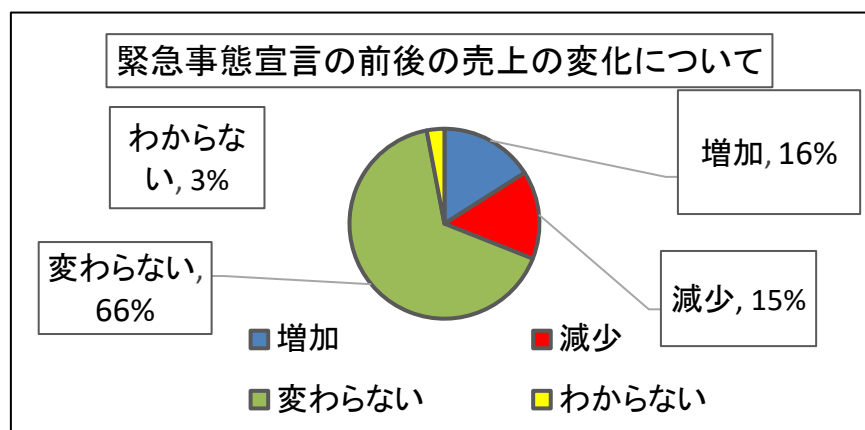
① 自社事業はコロナ前と比べてどの程度回復したと感じますか。

コロナ感染による売上が「まったく戻らない」と回答した企業は全体の21%で未だに厳しい状況である。しかし、「影響なし」と「コロナ前に戻った」と「8割程度戻った」の合計が56%であった。



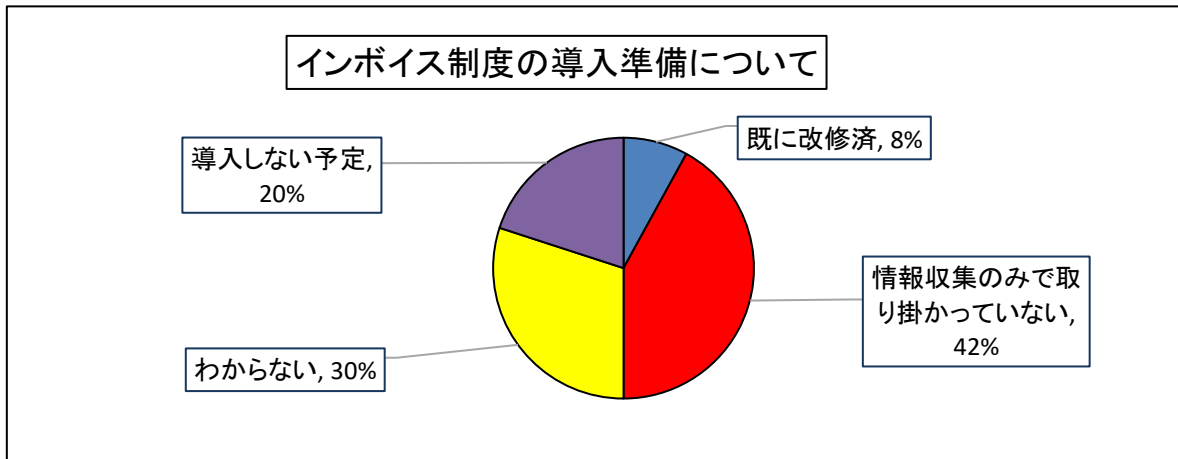
② 緊急事態宣言の解除の前後の売上の変化はありますか。

緊急事態宣言前後の売上が「変わらない」と回答した企業は全体の66%で「増加」16%あるものの、減少も15%あり全体として売上回復は見られなかった。



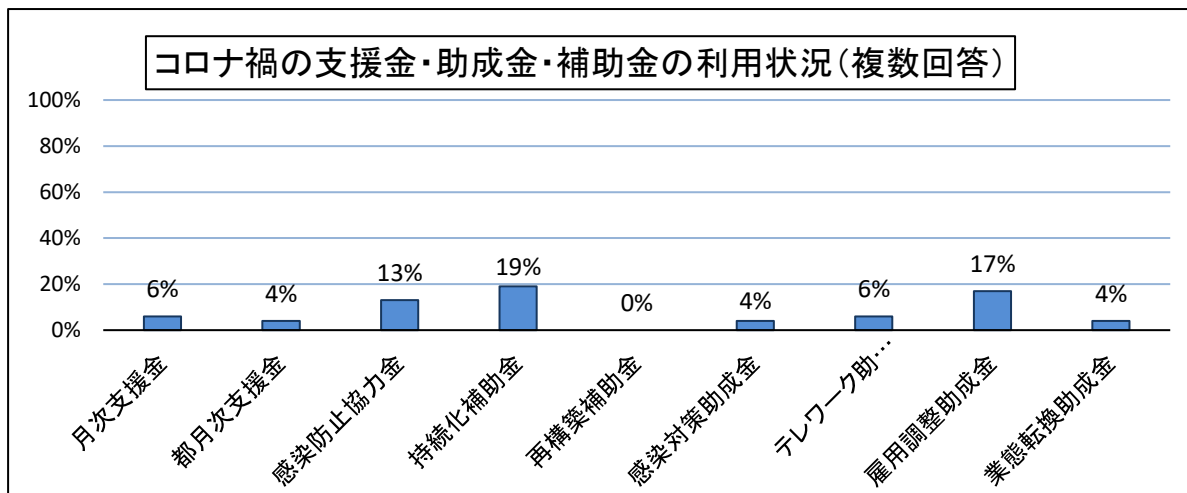
③ インボイス制度の導入準備について

全体の8%が「既に対応済」と回答があったが、「情報収集は行っているが取り掛かっていない」事業者が42%とまだ準備段階の回答が多かった。



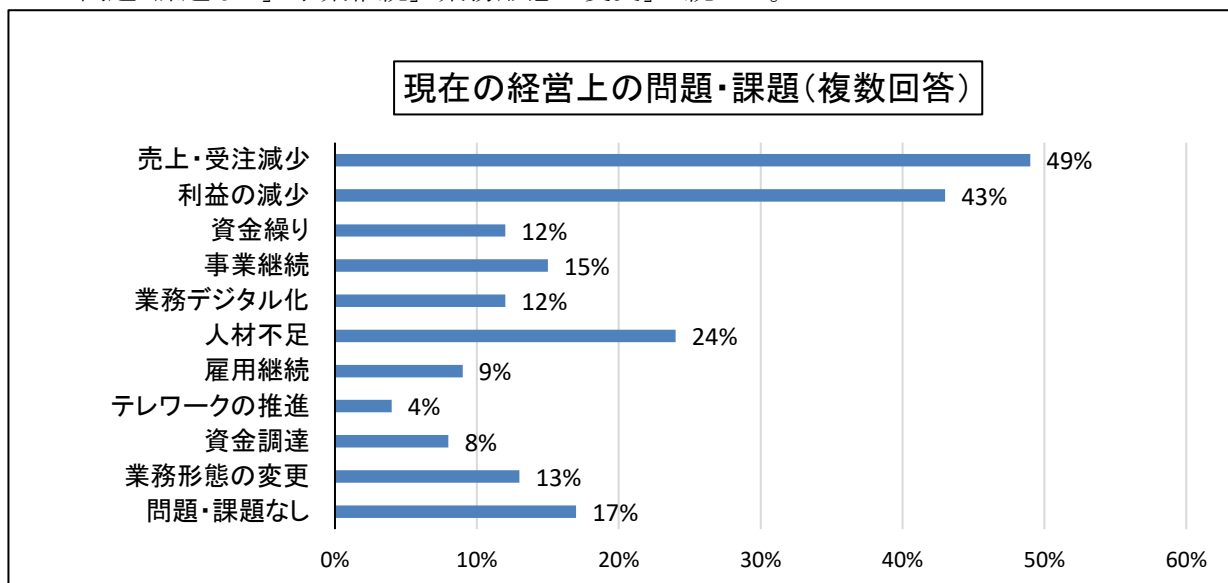
④ コロナ禍の支援金、助成金、補助金の利用状況【予定を含む】について

支援金等の利用状況は、「持続化補助金」が19%と多く、次に「雇用調整助成金」が多かった。



⑤ 現在の経営上の問題、課題について

「売上・受注減少」(49%)「利益の減少」(43%)がもっとも多かった。次いで「人材不足」「問題・課題なし」「事業継続」「業務形態の変更」が続いた。



調査4 今後の景気対策等についての主な意見・要望

- EV化の影響が未知数で不安。(製造業)
- コロナの影響が大きい事業者への支援金・補助金等の拡充が必要。(製造業)
- 製造に関して国内、国外の部品供給が安定するまで1~2年かかるものと思われる。国の景気対策は長期的なアプローチが必要。(製造業)
- 客先旅館ホテルの温浴施設用が30%以上占めており、設備管理費用の抑制等で売上20%減で戻すことができない。在庫を減らす等仕入を抑えてしのぐことがこの1年の課題。(製造業)
- もう少し補助金制度をわかりやすくしてもらいたい。(建設業)
- 管理会社と連絡を密にして入居率の改善向上を図る。(不動産業)
- 今の状態では非常に会社の維持が困難。新規事業の参入を検討している。(サービス業)
- 販路開拓とgototラベルに期待したい。ネットチラシを検討している。(サービス業)
- すべてはコロナ次第。(サービス業)
- 先を見据えるにもどのような変化が起こるかわからないまま、すぐには動きが取れない状況。(サービス業)
- 仕事が減少している。(サービス業)
- 海外需要が見込めないなか、国内消費の喚起対策が重要だと考えている。自助努力のみでは厳しいため、政府、東京都、多摩市のキャンペーンが拡充されることを望む。(サービス業)
- 人に会わない。外出しない意識が高かった時は身だしなみも気にせず来店周期が長かった。感染人数も減ってきたせいか、来店周期も通常に戻っているように感じる。(サービス業)
- 自分の年齢では景気対策などいうことはできない。(サービス業)
- 半導体の安定供給がないと戻らない。(サービス業)
- コロナの影響で、大変だったがイベントが少しずつ再開されており、このまま収束してほしい。(サービス業)
- 雇用調整助成金の終了が3月となるので、その後が心配。引き続きこのような制度があるととても助かる。(サービス業)
- 多摩市の制度を決めるときは、一般の人を入れてほしい。(サービス業)
- 一年以上のコロナ禍において、個人が外食をしなくなり飲食業は悪化している。この先も、もどに戻ることはないと思うと先行きは不安しかない。(飲食業)
- 外食がまだ以前のような活気を取り戻す状態になっていない。ライフスタイルの変化にどのように対応していくか課題。(飲食業)

- 同業種が増え、事業継続が困難な状況である。この状況でインボイスは厳しい。(飲食業)
- 物流費などが上昇し、売上も伸びず経営的にはかなり厳しい。コロナだけでなく原油や物価が上がり、雇用を守ることが難しい。(小売業)
- 多摩市の店舗は住居エリアから近いので売上はよかった。都心の店舗は大きく売上が減少している。(小売業)
- まだまだコロナの収束にはほど遠い。(小売業)
- ネット通販はコロナで異業種参入もあり厳しい。価格競争に巻き込まれないように利益を確保するのは厳しい。(小売業)

付 録

『令和3年下期 多摩商工会議所管内景況調査』

事業所名		営業年数	年
所在地		電 話	()
業種(主たる業種)	・製造 ・建設 ・不動産 ・サービス ・卸 売 ・飲食 ・小売 ・運輸	資本金	万円
事業内容		従業員数	正社員 名、パート等 名

(1) 令和3年下期(7月～12月)の状況について、令和2年下期(7～12月)と比較してお答えください。

項 目	■ 該当をするものに○をつけてください			
①売上	増加	不変	減少	
②採算	好転	不変	悪化	
③仕入単価	下落	不変	上昇	
④従業員	不足	不変	過剰	
⑤業界の景気動向	好転	不変	悪化	
⑥資金繰り	好転	不変	悪化	
⑦金融機関の融資状況	緩やか	不変	厳しい	融資なし

(2) 令和4年上期(1月～6月)の先行き見通しについて、令和3年下期と比べてお答えください。

項 目	■ 該当をするものに○をつけてください			
①売上	増加	不変	減少	
②採算	好転	不変	悪化	
③仕入単価	下落	不変	上昇	
④従業員	不足	不変	過剰	
⑤業界の景気動向	好転	不変	悪化	
⑥資金繰り	好転	不変	悪化	
⑦金融機関の融資状況	緩やか	不変	厳しい	融資なし

(3)新型コロナウイルスの影響、インボイス制度についてお伺いします。

① 今の御社の業績はコロナ前と比べてどの程度回復したと感じますか。

・コロナの影響なし	・コロナ前に戻った	・8割程度戻った	・3～5割程度戻った
・まったく戻らない	・わからない		

② 緊急事態宣言が解除されましたが、その前後で売上の変化はありますか。

・増加した	・減少した	・変わらない	・わからない
-------	-------	--------	--------

③ インボイス制度の導入準備について

・既に請求書や経理システム改修等を行っている	・情報収集は行っているが取り掛かっていない
・どのような準備が必要かわからない	・導入しない予定

④ コロナ禍の支援金、助成金、補助金の利用状況【予定含む】について(複数回答)

・月次支援金	・東京都月次支援給付金	・東京都感染防止協力金	・持続化補助金	
・再構築補助金	・感染症対策助成金	・テレワーク助成金	・雇用調整助成金	・業態転換助成金

⑤ コロナ禍の現在、貴社の経営上の問題、課題についてお答えください。(複数回答)

・売上、受注の減少	・利益の減少	・雇用継続	・資金調達	・事業継続	・事業形態の変更
・テレワークの推進	・資金繰り	・人材不足	・業務デジタル化	・特になし	

(4)今後の景気対策等について、ご意見ご要望をお書きください。

--

□ご協力ありがとうございました。この調査は、多摩市の景気動向を把握し、今後の意見具申・要望活動に役立つ以外の目的に使用することはありません。